

29Q-pm07

Bioassay evaluation of *Glycyrrhiza uralensis*

○ Yu Su SHIN¹, Chan Hum PARK¹, Hyojeung KANG², Hyosun CHO³, Young Sup AHN¹

(¹National Institute of Horticultural and Herbal Science, Rural Development

Administration, ²College of Pharmacy, Kyungpook National University, ³College of Pharmacy, Duksung Women's University)

【目的】甘草 (*Glycyrrhiza uralensis*) は韓国では、昔から東洋医学で、多様な薬理作用をもつ生薬剤として使われてきた材料である。本研究で、演者らは甘草の抽出物と二つの化合物に対して胃がん予防効果を検討した。

【方法】EBV 陽性腫瘍生成、測定および xenograft model での人間胃がん生成遅延効能を評価：xenograft model の大腿部へ人間胃がん細胞(SNU719 cells)を皮下注射で移植(5×10^6)、14~21 日後、胃がん形成を確認し、試料処理軍ごとに random 分類、甘草由来の化合物 isoliquiritigenin, quercetin を *in vitro* 細胞毒性評価から得た濃度をもとに 30mg/kg の甘草天然化合物を腫瘍細胞株の移植と同時に3週間経口投与した。

【結果】EBV 陽性胃がん細胞株が移植された xenograft model での quercetin および cordycepin の人間胃がん生成遅延効能を検討した結果、quercetin は高い人間胃がん生成抑制効能が観察されたが、cordycepin は胃がん生成抑制効能はないことが観察された。

【結論】甘草由来の単一成分を投与されていないグループ(drinking water)と比較して isoliquiritigenin および quercetin 投与グループともに胃がん生成抑制効能を持つことが明らかとなった。